



特定非営利活動法人

平成25年 夏号 NO.49



<http://nepai-mika.jp>

mika@ssr.co.jp

ネパール・ミカの会

平成25年8月10日発行 194-0035 東京都町田市忠生2-5-36 tel042-791-0602



「信は人のよき友」

NPO法人ネパール・ミカの会

理事長 齋藤 謹也

「平成25年度通常総会が開催されました。」

理事 西澤 忠

「信は人のよき友」という言葉があります。

私達「ミカの会」も、ゆっくりとささやかな支援をネパール・ルンビニを中心に続けてきた事によって、その支援額以上の「信用・信頼」を得ることができているように感じます。

今後も会員の皆様のおかげによって、ネパールの子供たちやネパールの方々ともよき友となり、架け橋となり続けられるよう努めたいと思っています。

また、「蒔かぬ種は生えぬ」と母が口ぐせにしていた言葉も思い出します。善き種を蒔き、釈尊生誕地に教育の花が咲くことを願う幸せを思います。

息の長いはなしではありませんが、しっかり前に進みましょう。花は「道心」によって咲きます。今年は猛暑と言われています。各自、充分健康に気をつけてまいりたいと思います。来年度に向けての中間調査も10月に行われます。その中には、校舎建設も予定されています。息切れしそうになりながらも、一歩前へ進めることは幸せですね。



5月18日に町田市民ホールにて、来賓に町田社会福祉協議会 鎌溝常務理事および国際ソロプチミスト町田一さつき・岡山会長代理をお迎えし、会員78名（委任状含む）の出席を得て開催されました。

冒頭齋藤理事長の挨拶があり、16年間の教育支援活動で現地の教育環境は着実に向上していること、今後更に成果の上がる教育支援活動について、会員皆さんにご協力をお願いがされました。

続いて、既に会員の皆様にご案内いたしました通り、「平成24年度事業報告・同決算報告」および「平成25年度事業計画（案）・同収支予算案」の審議が行われ原案通り可決決定されました。また理事長から「役員人事」承認の件について諮られ満場一致で承認されました。

次にラマ理事から16年間の「ネパール・ミカの会」の活動は子供達の就学率および女子就学率向上、上級校進学など着実な成果を上げていて、ルンビニ地区の受益生徒数は6千名に及んでいること、タンセン、カトマンドゥ地区を加えると約2万人にのぼるとの報告がありました。

以上で総会を無事終了し、引き続き同所レストランに場所を移し懇親会が賑やかに楽しく行われました。平成25年度もネパール子供達の元気な笑顔をいっぱい見られるように会のモットーである「ささやかに、心をこめて、手から手へ」を楽しく活動することを誓い合って散会しました。



「ラマさんと行く新緑の日光親睦旅行」

中野 千恵子

今年の親睦旅行は11名参加の日光でした。

町田駅に集合し、ロマンスカーで新宿へ。新宿でそれぞれお昼のお弁当を購入し駅のホームに向かいました。成田エクスプレスと同じホームなので結構歩きます。

新宿から日光まで乗り換えなしの電車ですが鬼怒川行でしたので下今市駅で乗り換えです。ちょうど、東部日光行の電車が来ていたので、すぐに乗り換え12時26分に到着。

休む暇もなく、今度は中禅寺湖行きのバスです。第2いろは坂を上っていきます。ラマさんは「いろはにほへと・・・」は知らないようでした。中禅寺湖温泉で下車。そこから華嚴の滝まで徒歩で5分位。下まで降りなかったものの、100Mの綺麗な滝に満足しました。



次は立木観音（日光山 中禅寺）まで歩きです。

中禅寺湖畔歌ヶ浜にあり、奈良時代に造られたものでそうです。日光は何度か来ているのに初めての立木観音です。男体山、白根山が良く見えました。又、下車したバス停に戻り、第1いろは坂を下り、今度は日光東照宮です。

東照宮の陽明門は修理中でしたので、二荒山神社まで足を延ばし戻って来ました。神橋から、バスと思ったのですが、東武日光駅まで長い下り坂を歩いてしまいました。駅からホテル行の最終バスで今夜の宿泊先 霧降高原 ホテルジャパン日光に向かいました。



私たち女性6人はとても立派な部屋で最上階でした。屋上にも行くことが出来360度見渡せます。食事とても美味しく満足。加藤さんに感謝・感謝です。

翌朝、又、お風呂に入り、朝食まで時間があつたので、ホテルの敷地内を散策。コテージがあつたり、テニスコートやゴルフコースもありました。

朝食後は、わたらせ渓谷鉄道に乗るため、日光駅から足尾駅行きのバスに乗りました。足尾駅に着いたのが10時23分。わたらせ鉄道は11時33分発です。駅前は何もないので、皆さんはかつてに時間つぶしです。私は山菜採りにしました。

鉄道に乗り、渓谷沿いに走ります。次に降りるのは神戸（ごうど）駅。駅構内にある列車のレストランで昼食。次の列車まで時間はありますが、富弘美術館までは行けません。仕方なく渓谷に行ったり、ボランティアの駅長さんと話したりしました。

13時24分発の列車に乗り、次は相老駅で東武特急「りょうもう28号」に乗り換えです。5分乗り換え時間があるはずが、わたらせ鉄道が遅れたため2分しかありません。皆さんには先に乗車してもらい、乗車キップを人数分駅員さんから買い、走って乗り込みました。北千住、代々木上原、町田駅とやっとなり、戻って来ました。とても長いぐるりと回った旅となりました。

私はわたらせ渓谷鉄道に一度乗ってみたいと思っていたので、まさか日光から行けるとは思っていなかったのも、とても満足の旅でした。皆さん、付き合ってくれて、ありがとうございます。

「托鉢」

森山 邦男

托鉢(たくはつ)について、少しく私感を述べさせていただきます。托鉢を一言で云うと施者からの喜捨を受ける受皿ということになるのですが、托鉢という行為の本来の意味は、釈尊への報恩を顕(あら)わす一つの具体的方法なのです。それをお布施の形で釈尊の代理者として布施をうける受者という受皿の行為ということになります。

托鉢はサンスクリット語でパインダパーティカとかピンダパタとか云い、乞食(こつじき)行(ぎょう)、頭陀(ずだ)行(ぎょう)、行乞(ぎょうこつ)、乞食(こつじき)などと訳されます。古代インドのバラモン教などでは午前中に鉢をもって在家を廻り食を乞(こ)うことが行われておりましたが(東南アジアでは現代でも日常的に行われています)仏教もその風習を取り入れ、出家僧は定められた種々の規律に従って托鉢を行い、生活の糧(かて)といたしました。中国(托鉢という語は宋代から用いられた)や日本では主として禅宗に於いて行われ、軒(けん)鉢(ぱつ)、門付(かどづけ)といつて家ごとにその家の幸福を祈る経文を唱えながら喜捨(きしゃ)を乞(こ)うていく形式と、連(れん)鉢(ぱつ)と称して一軒一軒立ちどまることなく(曹洞宗では4人以上で「ホー」という声を発しながら道を歩く様式と、辻道などで立って説法しながら或いは小鈴を鳴らして行く辻立(つじだち)ちというそれぞれの托鉢の仕方が有ります。

托鉢は他者に功德を積ませる行為なのです。つまり主体は施主にあります。ですから、浄財を受けても「有難うございます」とは施主の功德を失わせしむるとして決して言いません。頂戴するとも言いませんし、そもそもは僧堂生活に必要な最低限の食糧などを乞うことなのですが、ただお預かりをするという信者に功德を積ませしむるための行為なのです。

托鉢では、施物を受けた時に「ありがとうございます」とは言っではいけないので、「財法二施(ざいほうにせ)・功德(くどく)無量(むりょう)・檀波(だんぱ)羅(ら)蜜(みつ)・具足(ぐそく)円満(えんまん)」(「物布施と心布施の二つの施しは、等しく満ち足りた功德を得て智慧を円成する」という程の意味)といつて、喜捨をお受け致します。

お布施をする方を施主といいます。お布施は物でもお金でもなんでもいいんですが、見返りを求めると本当の布施にはなりません。托鉢行為は施者(せしゃ)・施物(せぶつ)・受者(じゅしゃ)の三者で成り立ちます。それは「等(とう)三輪(さんりん)空(くう)寂(じゃく)」でなくてはならないのです。

托鉢の本来的な眼目は、「等三輪空寂」にあります。浄財を施(ほどこ)す人(施者)と、それを受ける人(受者)、そして施されるもの(施物)の3つが、等(ひと)しく空(くう)(清浄)であることが大切ということなのです。

若し施者の心の中に「何々を誰々に幾らいくら布施するのだ」という思いが少しでもあるうちは、布施された浄財(施物)は、我執(がしゅう)に塗(まみれ)られた不浄のものでしかありません。さらり渡してその渡したことすらもさらりと忘れ、呆気(あつけ)らんかんと何も残さないというのが本当の布施なのです。そこで始めて功德が完結成就致します。受者も施物を受けることに卑屈(ひくつ)になってはいけませんし、施物も元々あったかの如く自然のありさまで不自然(ふぜんぜん)であってはならないのです。

以下は禅宗では良く知られています禅の開祖達磨大師と梁の武帝との問答のお話です。

武帝：「朕(ちん)、即位以来寺を作り、経を写し、僧に布施や供養をする事、挙げて記すべからず。如何(いかが)功德ありや」。(即位以来、自分は沢山の寺を建て、沢山の写経をし、沢山のお坊さんにお布施や供養してきたが、どんな功德があるかと武帝は聞きました。)

達磨：「無功德(むくどく)」。(達磨はそれに対して、たった一言、(功德など無い)と言いつつ放ったのです。)

詰り「見返りなど無い」、功德だと思ってなされた功德は功德になるまい。これには、流石に武帝も愚かなことを聞いたと思い、次の質問をしました。

武帝：「如何なるか是れ聖諦第(しょうていのだい)一義(いちぎ)」。(武帝は仏心天子と呼ばれていて、釈尊の説く本懐、まさに真俗不二のところ、聖諦第一義を実践していると思うが、如何(いかが)ですかと聞いた。)

達磨：「廓(かく)然(ねん)無聖(むしょう)」。(透(す)かさず達磨は、「廓然無聖(カラリとして、何も無いよ)」と言素(そつ)気(け)なく答えた。)

聖とは凡に相対する聖であって、第一義にならん。そんなものを追求すること自体がもう第一義ではないと答えているのです。行き詰った武帝が、そこで更に達磨に次の質問をしたのです。

武帝：「朕(ちん)に対するものは誰(た)そ」(それでは、聖るものが無いと言うのであれば、一体私と話している貴公は誰ですか?)

達磨：「不識(ふしき)」(透(す)かさず、達磨は「不識(識(し)らん)」と答えた。「ナン(だれ)某(が)し」と答えたら「廓然無聖」とならないわけで。当然のところなのですが、武帝と達磨とは縁がありませんでした。

武帝がいくら仏心天子といっても、「無功德」・「廓然無聖」・「不識」と達磨はありのままを答えているのに、境界(きょうがい)の相違は天と地、雲泥の差で、そして達磨は何時までもこんな人と話しをしていても行く先光明が見えないと思ひ、揚子江を渡って北方の魏の国へ去って行ってしまいましたのです。因みに武帝は獄中死だったそうです。

施者は布施を通して感謝を深め、執着心を取去る修行でもありますし、受者は施者の仏への布施を通じて喜びを持った明朗快活な心になるのです。また施物は托鉢によって多に活用される状態となるわけです。その托鉢とは、施者(受者ではない)の感謝の思いが仏に伝わったという思いが分かる具体的行為なのです。

仏教的には布施は三輪清浄でないといけないといわれます。施者も受者も施物も清浄でないといつと究極の仏への布施にはならないということですね。

ということで布施行は心の修行としては大変良いですよ。相手が特定の誰かではなく、人知れない誰かのために自ら財産を喜捨するその精神が大切ですよ。

「托鉢は道行く様々な人の人間観察である」と最初の内はそう思っていたものですが、とんでもない話で、なんと高慢で不遜なことだったんでしょうか、「道行く人を契機に自分の心がそのことに反応して変化をする凡夫の自分自身の心の人間観察である」ことに気が付き思ひ知りました。

猛暑の日、激寒の日、雨の日、強風の日、雪の日、そして、爽やかで穏やかな数々の日々に、街の中の風景の一つと為り切つて、JR町田駅前で約3年半前から毎週土曜日の午前中托鉢をいたしております。

生れて初めて托鉢したのは実は8年前のJR徳島駅前でした。夕方2時間位行いまして、托鉢は金額の多寡ではありませんが3人の方から260円の喜捨でした。最初の方は30歳代の女性の方で、涙が込み上げ出てくるほど嬉しかったことの思い出があります。以来、四国遍路のお接待(喜捨)をプールしていた全額を「ネパール・ミカの会」にお届け致しております。

毎週土曜日毎に、わたくしの托鉢のそのまた受皿となって頂いて居られます和田さんご夫婦の暖かい対応に偏に支えられまして、今日まで托鉢を続けられることが出来ました。また、先日は、托鉢が100回となったとの旨のご報告をご夫婦から頂きまして、そして、何足ものシッカリと編み込んだ丈夫な草鞋を布施して頂き、大変感謝致しております。

なお一層の励みともなっております。草鞋は托鉢の唯一の消耗品です。また素足で行う托鉢のパフォーマンス上、非常に重要な役割があります。今までは福井県の法具屋に特注しておりましたので本当に助かっております。

今後、ネパール教育支援の為の托鉢ということだけではなく、「世界平和」と「原発撤廃」の誓願をもって、なお且つ自分自身の生活の一部として継続していきたく思ひ居ります。

道元禅師が『参学(さんがく)眼力(がんりき)の及ぶばかりを見取会(けんしゅえ)取(しゅ)するなり』といつておられますが、それは学んだ視野の範囲しか見えないし、学んで眼の及ぶばかりの範囲をしか頂戴出来ないという現実。残念ながらその範囲しか頂戴出来ないのですから、兎にも角も、毎日の生活の中で、限りなく繰り返して時間をかけて参求し続け、務めさせて頂くことしかありません。それで自分の物差しを少しでも大きくしてゆくことだと思ひ居ります。そして、托鉢、それがわたくしにとっての今現在の最も具体的に仏道を学ぶことができます。托鉢行の目的なのです。

今後ともに毎週土曜日の午前10時から正午まで、JR町田駅前のペデストリアンデッキにて行っておりますので、ネパール・ミカの会の皆様方のご支援の程を宜しくお願ひ申し上げます。



「お遍路の旅を終えて」

大塚正男

前々からいつか四国八十八ヶ寺を巡ってみたいと言う気持ちが心の隅にこびり付いていた。或る仲間の会合でその話をしたところ、経験者がいて初めての一人遍路はちょっと無理じゃないか、誰か一緒に行ってくれる人はいないかなということになった。余計な事を・・・と思いながらも経験者が一緒だと何かと心強いと言う気持ちもあった。たまたまS君が私でよければご案内しましょうか、と言ってくれた。彼は四国巡礼先達（巡礼案内人）の資格を取得するために、既に3度も巡礼している男だ。鬼に金棒とはまさにこのことだ。彼から基礎的な説明をきくうちに、私の計画がいかに無謀であったかが身に沁みてわかってきた。

出発日も決まり細部の打ち合わせを某所で行った。持ち物の再確認・お遍路の作法・等々
先ず1.山門前で合掌一礼してから入る。
2.手洗いで手を清める。
3.本堂で納め札（住所氏名参詣日を記入した札）を納める。
4.線香3本口ウソク1本に火を点して供える。⑤念珠を両手で擦りながら般若心経・ご本尊真言・回向文等を唱える。

これを本堂と大師堂と同じ要領でお参りをする。更に私は写経をしているのでこれを写経奉納箱に納める。
（気の遠くなりそうな・・・これ全部やるの？せっかく行くんだから手を抜かずに私と同じようにやってみて下さい・アー行くなんて言わなければよかった。）
その他細かい注意事項の記された冊子ほか関連資料を渡されて結団式とは言っても飲む会は終了した。

出発当日彼のタウンエースが家の前につく・荷物を積み込み準備完了・・・勿論カメラ3台も忘れない。車は軽快に有明阜頭へと向かう。もうジタバタしてもしようがない。無事八十八ヶ寺結願を祈るしかない。船は19時30分有明阜頭を出港翌日13時30分に徳島港に着くのんびりとした旅の始まりである。

定刻に第一番札所霊山寺についた。ここですげ傘・金剛杖を始め巡礼に必要な道具一式を買い整える。これらを身に纏ってやっと形だけは一人前のお遍路さんになることができた。さあこれからが大変である。彼がやるようにスムーズに事が運ばない、線香は折れるやら、口ウソクでやけどするやらで彼も見ると見かねず手伝ってくれる始末。悪戦苦闘の末無事お遍路第一日が予定どおり終ることができた。



徳島県23ヶ寺 高知県17ヶ寺 愛媛県25ヶ寺 香川県13ヶ寺×で88ヶ寺距離にして約1400㎞、気の遠くなるような数字。道中では色々なドラマや失敗もあった。某お寺で納経帳に朱印をもらう時、まえのお寺さんが抜けてるみたいですよ、失敗した、ナビを入力してなかった。でもここから戻ればまだ間見合いそうだ。7㎞ほど戻って完了した。

また時間があつたので被写体をさがして路地を歩いていたら、老婦人がでてきて、私は年老いてお遍路ができません、どうか私の気持ちも合わせてお参りをしてください、と言って金一封を渡された。88番大窪寺で結願した折、報告を兼ねて記念の品を贈っていただいたところ丁寧な礼状がとどいた。四国には巡礼者に対するお接待の文化が根付いている。お寺によっては檀家の人達が水やお菓子や地元で取れたものを料理して出してくれたり、心の和む日も時どきあつた。

最後の88番札所大窪寺で納経を澄ませたときは達成感でいままでの疲れもどこへやら。ここで結願証をいただき、最後に高野山奥の院で御朱印いただいて帰路についた。
また行くかと問われれば、ハイ・と答える心境である。これを・お遍路病・というのだそうだ。私もこの病気に多少感染したのかも知れない。

***** 7月度理事会ニューズ *****

齋藤理事長、今村副理事長・大谷副理事長を再選！

7月7日の七夕に町田こもれび堂で7月度定例理事会が開催されました。任期満了となる理事長、副理事長（2名）を互選し、齋藤理事長および今村副理事長・大谷副理事長が再選されました。今後2年間この体制で運営が行われることとなります。

☆☆☆ 現地中間調査を10月頃実施を予定 ☆☆☆

昨年度実施できなかった現地中間調査を今年10月頃実施すべく準備を進めることになりました。調査範囲（ルンビニ、タンセン、カトマンドゥ）および調査項目などの詳細については、9月度理事会にて決定されます。

☆☆ シリ・シッダルタ小中学校建設資金募金目標額達成 ☆☆

会員皆様始め関係者の方々のご協力のお陰で目標額を達成することができました。有難うございました。（別掲記事参照）次は「サラソティー小学校」の校舎建設に向けて、一層皆様のご支援・ご協力をお願いします。

「事務局便り」

7月の移動例会・懇親会は21名の参加で、和気あいあいと楽しい会になりました。12月の移動例会・忘年会にはもっと大勢の方々の参加をお待ちしています。

【これからの予定】

9月8日(日) ザ・フェスタ栄通り パンダ駐車場(町田栄通り)
10月12・13日(土・日) 「まちだ大道芸」パークアベニュー通り野村証券前
10月1日(火)～9日(水) 中間調査
10月13日(日) 「相模原国際交流フェスティバル」大野北公民館(淵野辺)
12月8日(日) 「夢広場」町田市民フォーラム3階
12月21日(土) 移動例会・懇親会(忘年会) 場所未定

【編集後記】

世界規模で異常気象、政治不安が拡大しています。高齢者社会が穏やかで、住みやすい世界になる事を願いますが、険しい道になりそうです。元気出して手をつないで前進しましょう。